

目的：第1報では主として若い女性のからだつきに対する意識について検討した。本報ではからだつきに対する自己評価、満足度、ならびに身体計測値相互間の総合的關係及び他者の身体美に対する評価から、女子短大生のからだつきに対する評価の妥当性を確かめ、からだつきに対する評価因子を明らかにすることを目的とした。

方法：資料は第1報で用いた、1993年9～10月に実施した都内の女子短大生275名を対象とした70項目のからだつきに関するアンケート調査及び21項目の身体計測の結果と、180例のシルエット写真（1988年撮影）を用いた女子短大生160名によるからだつきの美的評価結果とシルエット写真の身体計測値である。これらの単純集計、クロス集計、因子分析による結果から検討した。

結果：①各身体部位の自己評価値と身体計測値との間には中程度以上の相関が認められ、また全体的なからだつきに対する評価値と身体計測値との因子分析結果では、両者間に対応がみられ、女子短大生は自己のからだつきをおおむね正しく評価している。②身体各部位の評価値と満足度、身体計測値の因子分析結果から、顔頸部、腰部、下肢部、上肢部など身体をブロック化して評価する7つの因子が抽出された。③シルエット写真を用いた他者に対する評価では、美しいと評価された例は約7%にすぎず、他者に対しても厳しい評価をしている。評価理由として顔度の高いものはメリハリ度、肥満度、姿勢の良しあしあげられた。